

授業概要

今や国際語である英語の歴史は波乱万丈ともいってもよいでしょう。そもそも英語はイギリス人の祖先である北ドイツの小部族、アングロ・サクソン人の言葉でした。そのゲルマン人の言葉は、1066年にフランスの一地方の領主がイギリスを武力制圧した大事件などの数々の外圧に影響を受けて、徐々に現在の形に変化してきました。その歴史的過程を見ていくのは非常に興味深いことです。

英語を学習していると、様々な疑問が浮かぶことがあります。英単語の綴り字はなぜ発音通り書かれず不規則で、ひとつひとつ暗記する必要があるのでしょうか。複数形は単数形にsをつける（例えば books）はずなのに、なぜ child の複数形は children なのでしょう。このような疑問は英語を歴史的に考察すれば自ずと解けていくのです。英語を過去から歴史的に分析し、現在の英語をさらに深く理解すること、これがこの講義の目的です。

授業計画

英語の歴史は、通常、古英語期、中英語期、近代英語期、現代英語期の4つの時代に大別します。この講義では、英語史全体を概観した後、主に最初の3つの時代の英語の特徴を考察していきます。

第1回	イントロダクション：授業の概要、成績の評価方法などの説明
第2回	古英語から近代英語へ：聖書を通して英語史全体を概観する
第3回	古英語期：英語のルーツ（言語発祥の起源から英語が出来るまで）
第4回	古英語期：ケルト人、ローマ人によるイギリス侵略とその英語への影響
第5回	古英語期：アングロ・サクソン人によるイギリス侵略と彼らが築き上げたアングロ・サクソンの文化
第6回	古英語期：古英語の主な特徴
第7回	古英語期：ヴァイキングによるイギリス侵略とその英語への影響
第8回	中英語期：ノルマン・コンクエスト（フランスの一地方の領主によるイギリス侵略）とその英語への影響
第9回	中英語期：中英語の主な特徴
第10回	近代英語期：標準語の成立（いかにして書き言葉と話し言葉の標準語が生まれたか）
第11回	近代英語期：大母音推移（初期近代英語期の長母音に生じた音韻変化）
第12回	近代英語期：ルネサンスと宗教改革から生じた言語に対する相対する考え方
第13回	近代英語期：綴り字問題（当時の不規則な綴り字を統一しようとする様々な動きと現在の英語の綴り字が不規則な原因）
第14回	近代英語期：規範文法の誕生（現在の英文法がいかに確立していったか）
第15回	総まとめ（筆記試験）

履修上の注意

この講義の目的は英語の読み書きではなく、ある言語の歴史を学ぶことにありますから、英語が苦手な方も受講できます。言葉に興味がある方ならば受講を歓迎します。テキスト、プリント等も日本語で書かれたものを使用します。

評価方法

定期試験で評価します。もちろん出席状況、学習に対する姿勢が良好であることはこの講義の履修上必要不可欠です。定期試験の問題は、授業中に講義受講者に配布するプリントにあらかじめ提示した問題の中から出題します。詳細については初回の授業で説明します。

テキスト

渡部昇一『英語の歴史』大修館書店（スタンダード英語講座3）。その他、適時、プリントを配布します。